

2016年2月8日
株式会社フィスコ (3807 JASDAQ)

AI分野で北京大学生態文明研究センターなどと共同研究 ～知見を持ち寄り幅広い視点からその技術の応用を試みる～

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」)は、子会社である株式会社 SJI(本社:東京都目黒区、代表取締役社長:牛 雨、以下「SJI」)、中国生態道德教育促進会、北京大学生態文明研究センターと人工知能(AI)分野に関して、共同研究を行うことになりましたのでお知らせします。

中国生態道德教育促進会は2006年5月に中国民政部の批准により設立され、生態道德教育に従事または支持する社会団体や著名人によって組織されるNPO法人であり、中国で初めての生態道德教育に従事する専門家集団です。また、北京大学生態文明研究センターは2007年10月に北京大学、中国生態道德教育促進会、中国国家林業局との合同で設立され、生態文明の理論研究の深化及び普及に従事する研究機関です。

両法人はこれまで、深刻化する中国の大気汚染、水質汚染、騒音、固体廃棄物汚染などの環境問題を背景に、国民の環境保護意識を高める教育や広告活動を推進してきましたが、今後はより実践的なアプローチの一つとして、人工知能を活用したシステムの研究とその普及活動を推進していきます。エネルギー、食、災害、生活環境リスクなど、様々な社会の持続可能性に関わる問題に、人工知能技術の応用という観点からその研究をしていくものです。

CO2削減を例にとれば、家電の省エネルギー化を学習型AIが一括支援するシステム、マンションやオフィスビルをスマート化するBEMS/HEMS、さらには街区レベルのスマートグリッド化、協調学習型電力システムなど、人工知能技術はさまざまな環境問題に対して広範囲な応用が可能です。

一方、フィスコはLaQoo+(<http://www.laqoo.com/index.html>)による株価自動予測システムをてがけ、アルゴリズムトレードの研究を継続してきました。昨今におけるコンピュータの処理能力の向上もあり、AIの機能も増し、最先端かつ異次元の仕組みをつくる環境が整ってきたと判断。フィンテック分野を今後の戦略的注力領域として位置づけているシステム子会社SJIとの連携によるフィスコAI株価自動予測システムの開発に着手しています。AIが成長することでアナリストも成長し、それがまたAIの成長を促すような共存共益、かつ相互の成長スパイラルの仕組みの構築も目指しています。

今回参加する各法人との共同研究においては、それぞれが保有する人工知能分野の知見を持ち寄り、より幅広い視点からその技術の応用を試みます。フィスコのマーケットに対する着眼点、SJIの40年に渡る金融機関のシステム構築経験と数多くのノウハウをベースとした実証実験・システム開発力に加え、中国生態道德教育促進会、北京大学生態文明研究センターによる学術的側面からの知見による取り組みにご期待ください。

【中国生態道德教育促進会の概要】

所在地 : 北京市東城区東直門内北小街 16 号院 3 号楼 3-702 室
設立日 : 2006 年 5 月
代表者 : 会長 董恒宇(内モンゴル自治区政協副主席)
幹事長 : 陳曉榮
副幹事長 : 楊 震
事業内容 : 環境保護意識を高めるための教育・法体制整備促進・環境保護関連研究

名誉会長 : 姜春云

(元中華人民共和国副首相、全国人大常委副委員長)

曲格平(中国環境保護基金会理事長)

陳寿朋(中国生態道德教育促進会会長)

冀朝鏘(元国連副事務総長)

朱 坦(元天津市政協副主席)

副会長 : 周 慶(元香港大公報編集長)

王 濤(中国農業大学副学長)

楊立新(天津年鑑社社長)

謝海榆(利海国際ホールディングス有限公司理事局主席)

紀延超(ハルビン威瀚電気設備株式会社理事長)

王景福(元中国生態文明研究及び促進会事務局長)

王召明(内モンゴル信園蒙草抗旱緑化株式会社理事長)

田炳信(香港成報集團理事局主席兼社長)

【北京大学生態文明研究センターの概要】

所在地 : 北京市東城区東直門内北小街 16 号院 3 号楼 3-702 室

設立日 : 2007 年 11 月

代表者 : センター長 陳寿朋

幹事長 : 陳曉榮

発起人 : 陳寿朋(同上)

許智宏院士(北京大学学長)

陳佳洱院士(北京大学元学長)

潘文石教授(北京大学生命科学学院)

設立機関(共同):

中国国家林業局

北京大学

中国生態道德教育促進会

活動内容 : 生態文明関連研究及び関連国際交流

以上